

自動制御の多分野応用小委員会（第25期・第4回）議事要旨

日時：令和4年11月12日（土）12:30～13:30

場所：ハイブリッド開催

現地会場：宇都宮大学 陽東キャンパス 11号館 1階 AL教室

遠隔会議（ZOOM）

出席：（順不同・敬称略）全17名

（現地参加者）浅間 一（東大），井村 順一（東工大），岩崎 誠（名工大），
榎木哲夫（京都大），藤崎 泰正（阪大），水野 毅（埼玉大），太田 快人（京大），
岡 宏一（高知工科大），貝原 俊也（神戸大），佐藤 昌之（JAXA），中野 公彦（東大），
平田 健太郎（岡山大），藤本 康孝（横浜国大），増田 士朗（東京都立大），
山下 善之（東京農工大）
（報告者）平田 光男（宇都宮大），橋本 浩一（東北大）
（オンライン参加者）なし

欠席：金子 修（電気通信大），渡辺 亨（日大）

配布資料：

- 資料 1-1：自動制御の多分野応用小委員会（第25期・第3回）議事録
- 資料 1-2：自動制御連合講演会運営委員会規程
- 資料 1-3：自動制御連合講演会規程
- 資料 2-1：第65回自動制御連合講演会開催報告
- 資料 2-2：制御工学教員協議会（2022年）報告
- 資料 3：第66回自動制御連合講演会実施案
- 資料 4：IFAC World Congress 2023 協賛学協会ご承諾のお願い
- 資料 5-1：IFAC co-sponsorship “light” for NMOs: IFACx
- 資料 5-2：Application for the label IFACX by the Japan NMO

議事：

（1）前回議事録の確認

前回議事録は既に承認（学術会議のHPに掲載済み）されている旨，藤崎委員長より説明があった。

（2）自動制御連合講演会の運営に関する事項

議論に先立ち，藤崎委員長（阪大）より，本件に関連して資料1-2，1-3の講演会運営委員会規程および講演会規程を参照するように説明があった。

① 第65回自動制御連合講演会報告

平田実行委員長（宇都宮大）より，資料2-1に基づき報告された。今回は非常事態宣言等の発令がなかったため，当初の予定通り，11月12日，13日に対面で開催が可能となっ

た。会議は、例年と同等の講演会参加費・登壇料として開催し、講演件数は、OS講演191件（OS 23件）、一般講演138件の計329件（昨年実績 263件）となった。特別講演は、宇都宮大・山本先生による「ニューノーマルで社会実装が加速する空中ディスプレイの概要と最新動向」が、制御工学教員協議会・制御工学教育研究集会は、本田技術研究所・近藤氏による「エンジニア教育のブレークスルーを考える」である。スポンサーは9社、会議参加登録者は合計547名（11月10日時点）となった。収支概算は、収入5,990千円、支出3,400千円（11月10日時点）である。

② 制御工学教員協議会(2022年)報告

中野委員（東京大）より、資料2-2に基づき報告された。令和4年度制御工学教員協議会総会は、第65回自動制御連合講演会2日目の11月13日12時から開催される。主催行事として、上記自動制御連合講演会報告にある制御工学教育研究集会が、共催行事として、オンラインワークショップGirls in Control日本語版2022年（第4回：8月20日、第5回：11月27日）が、それぞれ説明された。

③ 第66回自動制御連合講演会計画

橋本実行委員長（東北大）より、資料3に基づき計画案が説明された。第66回は、2023年10月7、8日に東北大学川内キャンパスにて開催する。講演募集のスケジュール案としては、OS提案締切8月1日、講演申込締切8月10日を考えている。会議規模としては、講演数250件、参加人数400名、収入6,670千円、支出4,980千円を想定している。

この説明に対して、例年にくらべて1ヶ月ほど会議開催が早いので、講演募集等の締切設定をもう少し前倒ししたほうが良いのではないかとのコメントがあった。これについては、スケジュール案は余裕を全く見ない場合であり、実際には、IFAC WC 2023開催等の時期も勘案しつつ、余裕を持たせて設定予定であるとの回答がなされた。

以上の意見交換も踏まえ、説明された実施計画を承認した。

④ 制御工学教員協議会(2023年)計画

橋本実行委員長（東北大）より口頭にて説明があった。本件は、奥山先生（東北大）を中心に準備を進める予定であり、制御工学教育研究集会の講演者などは未定である。

⑤ その他

藤崎委員長（阪大）より、資料4、5-1、5-2に基づき、IFAC WC 2023の協賛とIFAC Japan NMOによる自動制御連合講演会の後援に関する説明があり、議論を行った。

自動制御連合講演会運営委員会としてのIFAC WC 2023の協賛については、協賛学協会の一つとして協力することを承認した。

IFAC Japan NMOによる自動制御連合講演会の後援およびIFACx Japan ロゴの使用については、後援およびロゴ使用を希望することが承認された（この希望に従って、Japan NMOのRepresentativeである榎木委員よりIFAC本部へ申請する）。あわせて、次年度以降も継続的に後援およびロゴ使用を希望することとした。

(3) IFAC分科会の活動について

榎木委員（京大）より、前回（第25期第3回）以降の動きとして、(2)⑤で議論したIFACロゴ使用の件と、24年以降の公式イベント（第8回NMPC2024を京都で開催予定）の申請が

あった件が報告・説明された。

(4) 今後の活動計画

岡委員（高知工科大）より，自動制御連合講演会運営委員会が管理するWebサイトの自動制御協議会への移行について，現時点では完了していない旨の状況報告があった。

藤崎委員長（阪大）より，次回の本小委員会は，来年5月にオンラインで開催予定である旨の説明があった。また，2024年開催の第67回自動制御連合講演会の幹事学会がシステム制御情報学会であることの確認があり，幹事学会の委員に対して，次回の小委員会で準備状況（開催日，開催場所，実行委員長等）を説明できるようにして欲しいとの依頼があった。なお，次々回（来年10月開催予定）は，本小委員会としてではなく，自動制御連合講演会運営委員会として，自動制御連合講演会会場にて対面で開催予定である。

以上